

『論語』と『韓非子』に学ぶ 成功する組織の条件



日本の企業は、『論語』や儒教の影響を受けた「家族主義的」「温情的」経営を伝統的に行っているところが今でもたくさんあります。そして、これらの特徴は日本企業の様々な強みを生みだしてきました。

ところが昨今、グローバル化や世代間格差による価値観の多様化などによって、従来のやり方が通用しなくなってきた面があります。

中国古代、『論語』や儒教的な組織観の問題を見抜き、それに対抗するために生まれてきたのが『韓非子』という古典に他なりません。『韓非子』は、外部が厳しい競争環境で、しかも部下が信用できないという条件の中、組織が一つにまとまり、しかも成果が挙げられる方法を考案しました。以後、中国では『論語』と『韓非子』二つのやり方をうまくバランスさせることが、いい組織を作る基本だと考えられています。この二つの古典をもとに、よき組織を作る方法について守屋講師にお話いただきます。

【日時】 2019年11月18日(月) 15:00～17:00(受付開始14:30)

【講師】 守屋 淳(もりや あつし)氏 作家、中国古典研究家

＜プロフィール＞

作家／グロービス経営大学院客員教授。1965年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。2018年4～9月トロント大学倫理研究センター客員研究員。
著訳書に23万部の『現代語訳 論語と算盤』や『現代語訳 渋沢栄一自伝』、シリーズで20万部の『最高の戦略教科書 孫子』『マンガ 最高の戦略教科書 孫子』『組織サバイバルの教科書 韓非子』などがある。

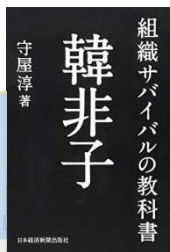
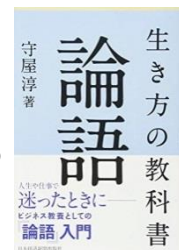
【内容】

～「論語」から～

- ・ 国民の信頼が失われてしまえば、政治そのものが成り立たなくなる(民、信なくんば立たず)『論語』顔淵篇
- ・ 君主が家臣を使うには礼を基本とし、家臣が君主に仕えるには、良心的であることを旨とする(君、臣を使うに礼を以ってし、臣、君に事うるに忠を以ってす)『論語』八佾篇

～「韓非子」から～

- ・ 君主がしていけないことは、相手を頭から信用してかかることである。そんなことをすれば相手からいいように利用されてしまう(人主の患いは人を信ずるに在り。人を信ずれば則ち人に制せらる)『韓非子』備内篇
- ・ 君主と臣下とは、一日に百回も戦っている。臣下は下心を隠して君主の出方をうかがい、君主は法を盾に取って臣下の結びつきを断ち切ろうとする(上下は一日に百戦す。下はその私を匿して用ってその上を試し、上は度量を操りて以ってその下を割く)『韓非子』揚権篇



【日時及び会場】

開催日時:2019年11月18日(月)

15:00~17:00(受付14:30)

会場:ホテルメトロポリタン高崎「白鷺」

高崎駅直結(高崎市八島町222)

<http://takasaki.metropolitan.jp/access/>

ご案内



【参加費】 無料

【お問合せ】 東京中小企業投資育成(株) ビジネスサポート部 須永 TEL: 03-3499-0755

【申込期限】 11月15日(金) 【定員】 60名(先着順)

【申込方法】 <https://www.sbic.co.jp/seminar/>からお申し込みいただくか、以下の受講申込書にある必要項目について、Eメールgyoshi-seminar@sbic.co.jpにてお送りください。本受講申込書のFAXによるお申込みもできます。なお、受講票等はございません。受付開始は14:30からです。

受講申込書

東京中小企業投資育成(株) ビジネスサポート部 須永 行
FAX:03-3499-0819 Eメール:gyoshi-seminar@sbic.co.jp

『論語』と『韓非子』に学ぶ成功する組織の条件

貴社名		
参加者 役職名・氏名(複数のご参加も可能です)		
連絡先	TEL	FAX
	E-mail	
投資育成からの投資について(○をつけてください)	投資を受けている ()	投資を受けていない ()
情報の取り扱いについて ご記入いただきました個人情報、参加者名簿として、またセミナーの企画・運営・実施のため使用する他、関連するアフターサービス、必要な情報の提供及び投資育成制度に関する各種ご案内のために使用します。		